

図書室まつり もつと遊んで学ぼうよ

第五回図書室まつりは、八月二日、村教育委員会（沼田英雄教育長）主催で約五十人が参加、ふれあい交流センター・図書室で開かれました。

図書まつりでは、かみしばいが、「ゲンさんのてんのぼり」と「海がぶつたりくすくすたり」の二作。図書クイズは、「魔女の宅急便の主人公は誰でしょう」など六問。「ふるさとかるた」とりやマジックショー、人形劇など盛りだくさんのイベントが繰り上げられました。



「悪いことはいけない」と、心に刻む子どもらの顔は真剣

次から次と楽しいひとときを過ごした子どもら。最後の人形劇「こぶとりじいさん」では、悪いことをしたじいさんが、こぶが増えて醜い顔になって泣いている姿に「悪いことはいけない」と真剣なまなざしで見入っていました。

普代小二年の道下明賢くんは、「人形劇を見るのは初めてで、楽しかった。よいおじいさんのこぶがなくなったのはよかったが、悪いおじいさんにこぶが増えたのはかわいそうだった。でも悪いことをするのはいけない」と、明るく話してくれました。

人形劇を上演くださったのは種市町のボンジュール（石倉幸江代表、メンバー七人）の皆さん六人で、ボランティアで楽しませてくれました。

ボンジュール代表の石倉さんは、「結成して十年になります。メンバーは当時の約半分になりましたが、喜んでくださる方々がいる限り頑張つて続けていきたいと思っています」と、手作りの人形を見つめながら満足そうに語ってくれました。

私には、ともだちがいっぱいいて、毎日いろいろなことをしています。勉強中、先生と友だちといっしょに勉強して楽しいです。遠足のときには、遊んだり写真を撮ったりお弁当を食べたりして、たくさん思い出をつくりました。こうして、いろいろできるのは、一人ではなくて友だちがいるおかげです。友だちがいなくて一生わすれないような大切な思い出なんてつくれないと思います。だから、友だちがいなくてつまらないし、



かなしいです。

この本の中の子どもにも友だちがいます。絵も楽しそうです。本の中に、ときどき友だちと意見がちがって「それはちがう」といわれても、もういちど考えればいいというふうを書いてありました。私はここを読んで「そうそう、友だちは同じように考えていないときもあるよな。友だちのことをもつと考えればいいんだ」と思いました。ちがう考えをもっているから、友だちはすばらしいなあと思いました。

友だちとけんかをしても仲がよいしよ。うさぎとよ。いいま。私は、友だちとけんかをしたとしても、おたがい心の中をよくわかつているから、すぐ仲良しになります。前よりもつと仲良くなれるから本当の話だと思えます。私が悪かったら、はずかしくても、あやまればこわくありません。友だちの顔を見ると、ゆう気がわいて、本当のすなおな自分が出てきてあやまれます。何があっても友だちはずつと友だちです。

★小学校中学年の部

「ともだちつてすばらしい」

普代小学校三年 内野沢 美里さん

なんてすてきなことば」と書いてありました。私は、作者は、友だちを大切にしているんだなあ」と感動しました。

みんなにも友だちがいて、いない人なんていないと思えます。もちろん、大人にだって友だちはいます。男友だちや女友だち。つらくたって、泣きたくたって、となりにはいいつも友だちがいるから、大切にしながら、はいけない。そういうことを、作者は、言っているのだと思いました。

いつもそばにいてくれる友だちだから、私は、友だちにおん返しをして、もつともつと仲のよい友だちになりたいです。友だちにしてあげたいことは、やさしくしたり、相だんにのったり、いっしょに遊んであげることです。つらいときやかなしいとき、友だちに相談すると、いい気持ちになって心が軽くなります。友だちは、私はいつもおうえんしてくれるから同じようにしてあげたいです。

本が一番さい後に、「ともだちすてきなことば」ともだちな

もし、友だちがいない人がいたら、私は、声をかけて遊んで友だちになってあげます。もし泣いている人がいたら、なぐさめてあげると友だちようが生まれると思えます。だから、私は、友だちをもつと大切にふやしていこうと考えました。

私は、すばらしい本に会えて幸せな気持ちになりました。みんなもたくさん友だちをつくつて幸せになつてほしいと思います。

Ⅱ原文のままⅡ（※美里さんは現在四年に進級しています）